

標本作製法

フリーズドライを利用した簡易剥製標本作成方法（その2 哺乳類編）

三宅 隆

前号で、鳥類の作成法を紹介したが、今回は小型哺乳類の標本作成法を紹介する。

使用したフリーズドライ（真空凍結乾燥器）ADVANTEC 240DA ドライチェンバー 3段（写真1）

準備する物：解剖器具（メス・ピンセット）、紙粘土、デイスパ注射器、18ゲージ注射針、人形用の目玉、脱脂綿、木の台（写真2）

今回はアカネズミの作成例

1. 体測 作成前に、標本としてのデータ（年月日、場所、採集者など）をチェックし、体測（体重、頭胴長、尾長、耳長、後足長など）をする（写真3）。

2. 眼瞼から、ピンセットとメスを用い、眼球

を取り出す（写真4）。

注意点：周囲を汚さないように。血で汚れたら過酸化水素水（オキシドール）で洗う。

3. 空洞になった眼窩に、紙粘土（100均のねんどのホイップクリームがよい）を注射器に入れ、空洞を埋める。少し時間を置いて、人工的な目玉（手芸センターで人形用の目を購入）を入れ込む（写真5）。

注意点：ネズミの目の大きさによって、種々の目玉を使用する。小



さなトガリネズミなどには入れない。

4. 腹部の正中線の下腹部をメスで切開し、そこから臓器（腸管、胃、肝臓）をピンセットで取り出す（写真 6）。

5. 腹部の内部をピンセットで脱脂綿をはさみ、腹腔内をきれいに拭う。その後、防虫・防腐剤（防虫・防腐処理の標本粉：ホウ酸 2 と明礬 1 と樟脳又はパラゾール 1 を粉末にして乳鉢にて乳棒でよく混ぜたもの）を腹腔内に葉匙などを使って適量入れる。その後脱脂綿を少しずつ入れて腹腔を埋め、元の腹部の大きさになるように詰め込む。詰め込んだのち腹筋と皮膚を合わせ、ボンドを中に入れて穴を閉じる（写真 7）。

注意点 腹部の毛が血液で汚れたら、過酸化水素水（オキシドール）を綿につけ、血液を拭い取り、ドライヤーで乾かす。

6. この時点で、一度冷凍庫へ入れ、体を凍結させる。

7. 30分から1時間ほどして体が少し硬くなったら、冷凍庫から取り出し、台の上で、体の態勢を整え、ピンなどで、固定する（写真 8）。

注意点：ここで、姿勢をきちんと決めないと、器械に入れた後は修正できない。

8. 冷凍庫で再凍結した後、フリーズドライの器械に入れ、最低 5 日間ほどそのままにして凍結乾燥する。その後取り出して、完成させる（写真 9）。

※普段は、あまり作れない、ツキノフグマ

の手足（骨ごと）をフリーズドライでハンズオン用に作ってみた（写真 10）。

利点

皮膚を剥がして筋肉や骨を取り除く手間がなくて済み、数時間の作業で完成し器械に入れられる。ネズミでは、色々な姿勢を比較的簡単に作ることができる。

欠点

器械の大きさ（内径 23cm, 高さ 10cm）から、大きい動物は入れられない。限度は、アムールハリネズミ位。

器械に入れる前にきちんと姿、形を整えないと、完成後は殆ど直せない。

今のところ、標本害虫による被害はないが、今まで作成して最高 6 年であるので、今後どれくらい標本が維持できるかは不明。湿気には弱いと思われるので、保管の仕方が大事と考える。

今までにこの方法で、小型哺乳類（齧歯類、トガリネズミ類、コウモリ類）は、殆ど作成しているが、今後とも試行錯誤して作成していくつもりである。

今までに作成した哺乳類標本（下の写真）
11 アムールハリネズミ、12 オオミトガリネズミ、13 カワネズミ、14 クマネズミ、15 ハタネズミ立姿勢、16 クビワコウモリなど。

